キャラクター名: 八郷燐

プレイヤー名:

シンドローム	ウロボロス バロール	ワークス	教師C	カヴァー	高等部2-B担任
オプショナル		年齢	25	性別	♀
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	35 %
出自	父親不在	経験	過去	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1		0			1
感覚	2		0			2
精神	4	1	0			5
社会	1		0			1

HP	27
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	4		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：アカデミア	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
視圧	ＲＣ	8r+4		10		C値8、侵蝕3
強視圧	ＲＣ	11r+4		15		C値8、侵蝕6
コールド・バレット	ＲＣ	11r+4		18		C値8、侵蝕11。範囲攻撃
コールド・デス・バレット	ＲＣ	20r+4		32		C値7、侵蝕17。範囲攻撃

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

Cランク I	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
傍らに立つ影	P	N		
一神ハル	P 連帯感	N 憐憫		
県初恵	P 感服	N 不快感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
CR:バロール	2	1	メジャー					
効果：								
黒の鉄槌	4	1	メジャー	視界				
効果：	射撃攻撃。A値[SL×2+2]							
紡ぎの魔眼	3	1	オート					
効果：	D+SL							
斥力跳躍	1	1	マイナー					
効果：	飛行状態で戦闘移動。距離+[SL×2]							
原初の赤：魔獣の衝撃	3	3	メジャー	視界				
効果：	射撃攻撃。A値5、D+SL							
原初の黒：完全なる世界	2	6	メジャー				100↑	
効果：	A値+[SL×3]、D+[SL+1]							
傍らに立つ影：氷の塔	1	5	メジャー	視界	範囲（選択）			
効果：	射撃攻撃。A値[SL×3]							
傍らの影法師	★							
効果：	影をエキストラとして登場可							
まだらの紐	★							
効果：	影に知覚を持たせる							
ディメンジョンゲート	★							
効果：	いつもの							
効果：								
効果：								
効果：								

それはもうえげつない実験だった。数神家全員に原初を打ち込むなんて、頭イってるとしか思えない…いや、すでに一神は壊れていたのだろう。とっくに滅んでるし、ユキも無事だったから、掘り返しても仕方ないのだが。

今から2年とちょっと前。適当に教職で食いつないでいたときに、UGNにエージェントへの勧誘を受けた。恩はあるが所属はちょっと…と断ると、今度は県学園長直々にアカデミアへと誘われた。「その力を、子どもたちのため使ってほしい」とのこと。不特定多数を助けるよりはいいかもしれない、と承諾してみることにした。
…いまいち学園長は信用できないが、悪い選択ではなかったと思う。何よりサードアイが伸び伸びと生きられるのはいいことだ。
でも初っ端から担任という処遇はひどいのではないだろうか。そんなに人手が足りないのか？

入学式前まで時は進み、担任としての初顔合わせ。第一印象は大事だ。舐められるなんてありえないが、悪印象もよろしくない。最初は無難な挨拶と自己紹介を
「…えっ！？さとり、さん…！？」
なんでハルがいるのよ。あなた本土でUGNに所属してたはずでしょうが。あとここでさとりって呼ぶな。

どうやら私は、学園に対してわりと物申せる立場にいるらしい。学園長から直接に誘われたことと、出自によるものだと推測できる。…どれだけ理想を掲げても、いざこざや事件が絶えないのは事実。最近ではFHらしきものの潜伏も確認できている。ならばこの立場、有益に使わせてもらおうか。
固い規律の中にも、ある程度の『遊び』は必要だろう？

「…ほら、サードアイ。遊んであげなさい」

八郷燐。県に引き抜かれたフリーランス出身のオーヴァード教師。本人はCランク相当の力しか発揮できないが、相棒『サードアイ』が得体のしれない力を有し